



ご卒業おめでとうございます

美麻小中学校の6年生修了式・9年生卒業証書授与式が3月18日に行われました。卒業生には、手すきの卒業証書が渡されました。

新型コロナウイルスの影響で休校となる中、出席者を限定しての開催となりましたが、玄関前では、卒業を祝いたいと、地域の皆さん、在校生の有志がかけつけました。

式典自粛の中、源流美麻太鼓の演奏や在校生の花の贈呈、校歌斉唱などさまざまなサプライズがありました。小さいながら手作りの素晴らしい卒業式になりました。



facebook



ホームページ美麻Wiki

《コミュニティ・スクールのお話》

6年生修了式・9年生卒業証書授与式を行いました

本来であれば、在校生やたくさんのご来賓・保護者の方々に祝福され、証書授与などの動きも十分に練習をした中での式となるはずでした。しかし、いろいろな場面が短縮になるなど臨時休校からのぶっつけ本番的な式とならざるを得ませんでした。しかし2月28日の今年度最後の登校日に急遽行った9年生を送る会でもそうでしたが、こういう状況であればこそ、美麻の子どもたちは底力を出し、思いがぎゅうと詰まった感動的な式をつくりあげることができました。保護者の出席は1名まで、ご来賓の方も制限をさせていただくなどご迷惑をおかけすることとなりました。式は今後、市ケーブルテレビで放映されますのでご覧下さい。また、音声で式の様子を放送いただいた



こと。式ではカットせざるを得なかった校歌を無線に合わせて歌っていただいたこと。またサプライズの「美麻源流太鼓」の皆さんからの門出を祝う演奏など地域の方々にも多大なるご支援をいただくこととなりました。ありがとうございました。
(美麻小中学校だより)

卒業式を盛り上げようと、様々な取り組みが行われました

源流美麻太鼓がサプライズ演奏



玄関前では源流美麻太鼓の皆さんのサプライズ演奏が行われ、オリジナル曲「旅立ち」で卒業生にエールを贈りました。

地域に校歌を流そう

学校の先生方は、卒業式に参加できない在校生のために、やれることはないかと考え、当日、地域に校歌が流れるよう調整してくれました。



6年生修了式

6年生の修了式では、自分たちで作った手すき和紙の修了証書が手渡されました。



《コミュニティ・スクールの話題》

美麻かるた制作部 鋭意制作中!!

～ 皆さんのお力をぜひ貸してください!～



美麻にはこんなに宝物があるのか…! 6年生の時に様々な美麻の魅力に出会って早2年。食・民話伝承・特産品・くらし・景勝地・方言・美麻小中学校…様々な分野における美麻の魅力を発信し、語り継いでいきたい。また、遊びを通して世代を超えて美麻の皆さんがつながることができたら・・・と考えた私たちは、美麻のふるさとかるた製作を思いつきました。野望は、かるた大会を美麻の文化にすること! 美麻かるたをきっかけに、多くの方が美麻を語り合う時間を作ること! 完成までの道のりはまだまだ長く険しく感じますが、必ずや完成させたいと思います。

8年生になって行った地域の方へのインタビューや現地調査でも、次々と新たな魅力を発見しています。まだまだ私たちの知らない美麻のよさがあるはず。かるたの読み札(歌)を公開して意見を募集する等、地域の皆さんとかるたを作る方策を考え計画しています。

皆さんの思う美麻の魅力や、私たちのつくる「かるた」へのアドバイスをぜひお寄せください。
ご協力よろしくお願ひします!!

(文責: 村田)

《コミュニティ・スクールのお話》

ありがとう 9年生

2月28日（金）、今年度最後の登校日は、突然やってきました。

もっともっと9年生と一緒に過ごしたかった。もっともっと9年生から色々なことを教えてもらいたかった。まだ、お別れしたくない…限られた時間かもしれないけれど、なんとか9年生に感謝の気持ちを伝えたい。

8年生が動きはじめ、1～8年生の思いが結集し、先生方が力を貸してくださりと、急ごしらえの9年生を送る会（スペシャルver.）を行うことができました。集合することはできないため、中庭側の窓を開けて、それぞれの教室から9年生教室に向かってよびかけます。飛び交う全校の声と思い。9年生からも、よびかけと卒業の歌のお返しがありました。未来への決意と沢山の人への感謝を堂々と語る姿は、この1年間そうであったように、全校が憧れるかっこいい先輩の姿そのものでした。一人ひとりの思いが見えるようで、さながら映画のワンシーンのよう



なひとときでした。

全校の皆さん、先生方のおかげで9送会（スペシャルver.）ができました。ご協力ありがとうございました。そして、9年生、今まで本当にありがとうございました。これからも、ずっとずっと応援しています。（文責：村田）

ホップ期アルペンスキー教室



今年は、例年になく暖かく積雪も少なかったため、予定していた爺ガ岳スキー場で行うことができませんでした。そのため、エイブル白馬五竜スキー場に変更して、2月14日金曜日に行いました。五竜での開催は初めてでしたが、どの班もゴンドラに乗り、多彩なコースを楽しむことができました。例年ならば、校庭でたくさんクロスカントリーをしてから、アルペン教室となるはずが…今年度は、クロスカントリーすらほとんどできませんでした。そして、第一回目のスキー教室は中止に！！待ちに待ったスキー教室、ホップ期の子供たちは、本当に嬉しそうでした。

《コミュニティ・スクールの話題》

大町あめ市に参加しました～花MAME株式会社～

雪が止んだ曇り空の中の2月11日、大町あめ市の信濃大町おもてなしマルシェに6・7年生8名で参加してきました。美麻の法被を羽織り、美麻をアピールしながら、花豆ナゲットの販売をお手伝いしたり、マルシェ参加者に対してのアンケート実施や、おおまびよ

ん記念バッチの配付をしたりしました。

緊張した面持ちでスタートしたものの、小さな子や大人とのふれあいから次第に笑顔があふれるようになり、終了後には達成感に満ちた充実した表情が印象的でした。



花豆を育てませんか？

いつも花MAME株式会社へのご理解、ご協力をありがとうございます。

先輩たちが創り上げた花MAME株式会社を引き継いでいる美麻小中学校7年生では、あと2年をかけてさらに「花豆を美麻の特産品にしたい」という想いがあります。地域でも花豆栽培をさせていただいているお家が増えてきていることに、うれしさを感じています。また、今年度は収穫量が少なかったのですが、美麻小中学校でも100本近くの苗を植えました。

そこで、美麻の里を花豆の真っ赤な花でいっぱいにしませんか？

ご興味のある方は、美麻支所（29-2311）美麻地域づくり会議事務局までお願いします。



コミュニティ・スクールの歴史を学ぶ

美麻小中学校学校支援ボランティア研修会

を2月8日土曜日に行いました。今回は、過



去5代の校長先生方に参加いただき、美麻小中学校の学校づくりについてのお話を座談会形式で行いました。当日はコミュニティ・スクール、協働の学び、地域と協働による総合学習や元気アップ運動など、美麻の特色ある教育がどう作られてきたのかお伺いしました。

《地域の話》

みんなで一緒に 豆まき

1月31日に美麻地区の親子教室「パンダクラブ」を保育園に招き、合同で豆まきを楽しみました。

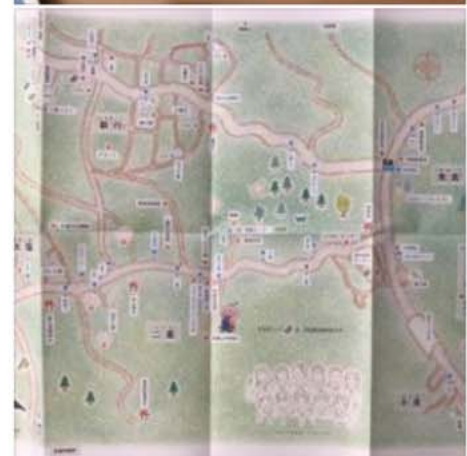
保育園児15名とパンダクラブの親子が参加し、「お腹の中の泣き虫鬼、怒りん坊鬼、いじわる鬼をやっつけよう」と士気を高め、豆を食べて鬼退治をしました。

園児も親子も怖がりながらも大きな声で「鬼は外！福は内！」と豆を鬼に投げつけました。鬼が反省して山へ帰ると子どもたちはホッとした様子でした。



私たちが伝えたい美麻の軌跡

美麻小中学校の9年生が3年間取り組んできた地域での総合学習、『私たちが伝えたい美麻の軌跡』『美麻和になれMAP』がついに印刷が終わり納品されました。新型コロナウイルスによる突然の休校に最後の仕上げが間に合わず、先生や支援隊、特にイラストや地図づくり、レイアウト、印刷製法を指導していただいた山猫屋の竹花さんにすいぶんお世話になりました。印刷の費用は、北陸地域づくり協会様、美麻地域づくり会議、学校支援隊に加え、多くの地域のお店や作家さんの協賛をいただき賄うことができました。皆様のご支援ご指導ご協力に感謝申し上げます。



≪ 地域 の 話 題 ≫

～歴史から人の息を感じとる～

山村留学の卒業生輝士くんから見た青具地区

こんにちは。広報部会の北沢和也です。私は15歳まで青具で過ごしていたのですが、その当時、あまり良さを見出せず早く出たいと思っていました。でもそれは、今思うとそれはもったいないことだったとわかりました。

そのきっかけは4年にわたり青具の歴史をテーマに取り組んでいた山村留學生の輝士くんとの出会いです。彼とは昨年、地区住民の70代と30代にインタビューをする活動の中で出会いました。私自身、林業に携わっているので、林道近辺の廃集落はだいたいわかっていたのですが、彼はさらに奥の集落まで自分の足で行っていて驚くとともに、もしかしたら、地域住民よりも知っているのではないかと思い、このことを広く伝えたくになりました。（集落の奥深さにも触れたいのですがそれは書ききれません。興味のある方は高橋功さんを紹介いたします。きっと喜んで教えてくれると思います。）

さて、ここでちょっと悲しいデータをご紹介します。昭和39年から平成29年の約50年の間に青具の人口は1,192人から268人になっているのです。1,192人という多さにも、268人という少なさにもびっくりです。自分の故郷なので否定的な気持ちになりがちだったのですが、彼との出会いのおかげで、今では自分自身、少し違う視点も持てるようになっています。



それでは輝士くんの成長を追っていきたいと思います。

まず、輝士くんが1年目に青具を探索した感想です。そこに住んでいた人からは「住むのは大変だったけど、やっぱり生まれ育ったところに戻りたくなる。」ということを言われたそうです。でも、自然の中



に故郷があるということは、空気が悪くてうるさい埼玉が故郷の輝士くんには、ある意味幸せなのかなと感じたとのこと。

そして2年目、地域の歴史を伝えることができる高橋さんと出会い、輝士くんは考えを一気に変えることになりました。この出会いで、輝士くんはあらためてその土地に根付いた暮らしの奥深さを知り、ここでの生活の文化を消さないようにしなければと思ったそうです。そしてもっと聞けることを聞き、自分の中で大切なものを記憶し続けたい、さらに、素直に聞きたい子供が伝えられる人に出会うことの大切さを感じたそうです。

3年目、輝士くんは私も行ったことがない片岡ダムの奥、入山という地区に行き、荒井さんと出会います。そして、荒井さんを通じて、50年も前から都会の人との交流があったことが記された「入山雑記」という日記のような本を探し当てます。その本との出会いがさらに輝士くんの青具への見方を変えるのです。（次ページつづく）

◀ 地域の話題 ▶

(前ページから続き)

この本と出会い、輝士くんは、今まで道を歩くときに気にしなかったこと、例えばスギ林を見ると、ここは昔畑か田んぼで、ここからは、この木が植えられる前にはもっといい景色が見えたのだろうな、など・・・昔の姿を想像してみるようになったそうです。また、たくさんの廃集落を訪ね、ふるさとへの想いを聞いていく中で、自分自身のご先祖様のことや、自分の出身について、なぜかしっかりと知っておかなければと思うようになり、行ってみなくてはならないな、という気持ちを持つようになったそうです。実はこの考え方は、私が30歳になってやっと思い始めたことです。彼の将来が楽しみになります。

そして4年目、70代の宮沢さんと30代の私へのインタビューで彼の青具の探索はひと段落しました。宮沢さんの「住めば都」という言葉と、私の「1度出て行って戻って来て初めて良さがわかる」という言葉が印象に残ったと言っていました。

彼は最後に“埼玉に戻るので、青具の魅力を伝えていきたいし、修園しても山留生を連れて青具を訪れ続けたいと思います”と締



めくってくれました。

成長期の子供の4年間で伝えるのは簡単ではないですね。私は彼から、歴史を旅することで素直にその土地を好きになることを学びました。私は今後そのような気持ちで林業に携わっていくことが理想です。今回快くお話を聞かせていただいた赤坂さん、輝士くん、高橋さん、熊谷さん、ありがとうございます。外から地域に来た人、ずっと住み続けている人、出ていった人、出て戻ってきた人、地域、地域の自然、それらの歴史を旅する余裕があればそこに一筋の光があるはずで

(北沢和也)

つな が れ 地 域 の お 店 ③

美麻地区のお店をリレーで紹介します。

道の駅ぽかぽかランド美麻 レストラン「麻の里」

- ・せいろそば 650円
- ・天せいろそば 1200円

板長の打つ蕎麦は遠方から見えるお客様やスタッフからも人気です。

中にはお蕎麦を楽しみに泊まりに来るという方もいます。美麻には美味しいお蕎麦屋さんがたくさんありますが、道の駅のお蕎麦も是非ご賞味下さい。



■ 編集・発行 美麻地域づくり会議

住所 大町市美麻11810-イ 電話29-2311 FAX29-2333 ・ 電子メール info@miasa.info